

GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

1月号

2010年1月1日 Vol.185

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



啓翁桜

リストランテ・ユリ

～生き生きと生きること、病気であること～

理事長・院長 高木由利

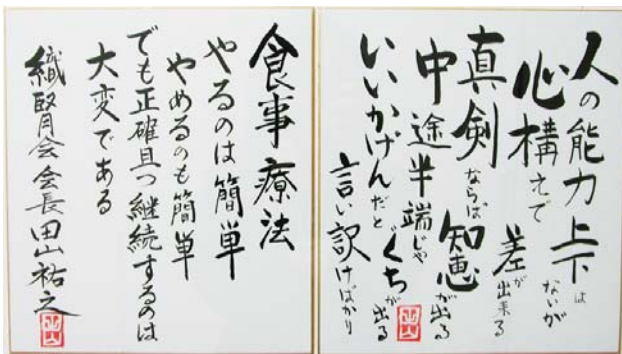


あけましておめでとうございます。

親しくしている先生から頂いたポインセチアが今年もまた見事に赤い葉をつけています。幸せな環境にいると植物も美しくなるのです。

* * *

昨年の秋に私の腎不全外来に通院しているTさんが腎不全食を作り学んでいる日々から、描き出したことばを色紙につづり、プレゼントして下さいました。その言葉に私は涙が出るほど感動しました。



2003年3月のある日、Tさんは透析をしろと言われてとおっしゃって私の外来を受診されました。アロハシャツのようなオープンシャツを着て、一見幸せそうですが、その表情には不安と苦痛がありありと感じ

られました。私は厳密な食事療法をすることで透析を先延ばしにできるが、真剣に取り組む気があるかを尋ねると、Tさんは“やります”という返事だったので。栄養士が手取り足取りの指導をし、24時間蓄尿も食事記録も正確にできるようになりました。あれから6年9ヶ月。どんなに努力しても腎不全は少しずつ進みましたが、まだ透析には入らず、今のTさんは純粋で生き生きとした美しい眼差しで、腎不全食を多くの患者さんに述べ伝えていきます。

* * *

今年のリストランテ・ユリはドイツ料理のフルコースにしました。オニオンスープから始めメインディッシュはクロイツァー邸のハンブルグステーキ、サイドディッシュはあさりのマリニエール、温野菜のサラダ、でんぷん粉の焼きたてパン、デザートはリンゴの





ケーキ、そしてワイン（各国）。おいしくてステキで心がこもっている完璧な腎不全食のレストラン“リストランテ・ユリ”はスタッフの協力で12月3日（木）に楽しくオープンしました。約50名のランチパーティです。今年は患者様だけでなく、おいしい腎不全食に強い関心を持ったお客様が多くいらして下さったことが、私の情熱をかきたてました。

超低たんぱく腎不全食に対する腎臓学会の理解は極めて乏しく、超低たんぱく食は栄養障害を起こしやすく指導が難しいのだ、もっと緩やかなたんぱく制限が望ましいという考え方です。しかし、食事療法は薬物療法とは異なり人間の体を日々作っている基本的な治療ですので、指導が難しいので緩くすることは全く意味のない結果をもたらすのです。1人1人の体に、最も必要な栄養療法をデザインし、たんぱく質、塩分、エネルギーを組み立てなければ効果が上がらないのは素人でもうなづけることだと私は考えます。更に指導が難しいと言い切るのは医療者側の怠慢です。医師、栄養士を含む指導者側である医療従事者が学び、考え、悩み、努力することが必要なのです。

昭和大学客員教授 出浦照國先生が私に6～7年位前におっしゃった言葉を私は今でもはっきりと覚えています。“あなたには独特なあなたにしかない食の文化がある。だから栄養士や調理師にやらせるのではなく、あなた自身がメニューを作り、調理して、おいしい腎不全食を作るべきだ”と。それから私は明けても暮れてもおいしい腎不全食のメニューを作る日々が続きました。そして、それは全て私の幼い頃からの体験に基づく食の文化から始まっていったのです。

今年のメインディッシュの“クロイツァー邸のハンブルグステーキ”は、今は亡きピアニストの叔母、クロイツァー豊子の思い出のお料理をアレンジしたもの

です。目黒の小高い丘の上にあるヨーロッパ建築のような木造のお屋敷のキッチンから漂ってくるソースの香り、そして手際よく作っている美しい叔母の横顔、真白なお皿に盛られたハンブルグステーキ、その思い出は小学校3年生の時の味と香りの記憶です。

リストランテ・ユリはこの愛情深いお料理が見事に超低たんぱく腎不全食に生まれ変わり、お客様の心を捉えたのだと思います。出浦先生が語られた“あなたにしかない食の文化・・・”の深い意味をかみしめました。



私は腎不全の方々との出会いを通して非常に大きなメッセージを頂きました。それは“病気であること＝不幸である”ではなく、“病気であっても生き生きと生きることができる”だったのです。私は腎不全という病気と出会い、腎不全について学び、悩み、その奥深さに自らの無力さをまざまざと見せつけられました。しかし、腎不全を克服するための治療の原点である腎不全食と出会い、そこに命と生き生きと生きる方策を見出したのです。

私は生きていく限り、腎不全食のメニューを作り続けるだろうと思います。



2010年



消化器内科 岡田 仁史

数えて58回目の新年が明けた。特別、感慨に浸ることはない。へそ曲がりな私は、“新年にあたり心を新たに！”とか“輝かしい新年に望み、年頭のご挨拶を…”と言った発言は心苦しい。しかも、過去57年の経験（失敗や成功、間違いや正解、悶え苦しむような悩み、恨みや戯言）が58年目の基盤になっている。“心を新たに、輝かしい新年に向かって”はこれらの礎を無駄にしてしまうような気がする。57年間、築き上げた基盤の上にこそ新しい年、58年が存在する。そしてそれは59年の基盤になる。従って私は、新年にあたり心を新たにする気持ちは一切ない。私にとって新しいものとは、過去の基盤の上に乗るものであって、生来の基盤になっていくものである。新年も、昨年、いや過去と同じように生きていきたい。過去の基盤の上に新しい経験を上乘せし続けなければ進歩はない。もちろん“心を新たに”の意味は私が納得できない意味とは異なるものを示しているのは解かる。

私が言いたいのは、心を新たにする前に、それ以前

をよく考え、更なる新たな挑戦を続けていくということ。

2010年にあたり、改めて織本病院の病院理念について考えたい。

曰、

- 患者様に満足していただける医療を実践する。
- 互いにいたわり合う職場を創る。
- 患者様と職員、双方が癒される病院にする。

おそらく2010年はこの理念を再認識する年になると思う。我々、織本病院職員は努力しなければならない。

そして、患者様にもご協力をお願いしたいと考えます。今の混乱した日本医療を考え直す病院を作れたら幸いです。少なくとも患者様から“薬を貰いに行く”と言われる病院にはならない覚悟です。

新年あけましておめでとうございます



看護部長 佐藤 永子

昨年前半は看護師のおめでたい出産が相次ぎ、喜びの反面スタッフの確保に懸命だったことを思い出します。しかし、後半はそれぞれ育児休暇が終わり素敵なママとなり、また人間性も豊かになって復職し、生き生きと働いている姿を見ると何故かホッと、いつしか頼もしさも感じられるようになりました。

さて本年はオーダーリングシステムの導入が予定されております。昨年秋から職員一丸となって取り組んでおり、使いやすく素晴らしいものにしようと熱い想い

で日々話し合いが行われています。看護部にも看護支援システムの導入が許可されました。新しいシステムにより質の高い看護が提供できるように教育を中心に計画しております。

いつも心に愛と思いやりと感謝を忘れず、本年も地域の皆様に安心・安全な医療を提供できるよう、病院の理念、看護部の理念に基づき邁進していきたいと思っております。

【外来診療体制表】

	月		火		水		木		金		土	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科					○	○						
脳神経外科			○ ※1			○			○ ※1		○ ※2	○ ※3
肛門科			○								○ ※4	
循環器科	○							○		○		
泌尿器科				○								
皮膚科		○										
専門外来	腎不全外来					○					○	
	乳腺外来						○					
	睡眠時無呼吸外来										○	○
	カウンセリング				○							

○ 完全予約制
○ 予約可能（予約のない方も受付可能ですが予約された方が優先となります）

午前受付 8:30～11:30（診療開始 9:00）
午後受付 13:30～16:30（診療開始 14:00）

- ※1 10:00から診療開始
※2 第2土曜日は休診
※3 15:00まで・第2土曜日は休診
※4 第4土曜日のみ診療

第106回 腎疾患ゼミナール

新春特別講演会 『清瀬はこんなに面白い!! 歴史とロマンの古街道』

【講師】古街道研究家 朝日カルチャーセンター・NHK学園講師
日本フットバス協会理事 歴史古街道団团长 宮田 太郎氏



清瀬には、はるか古代にすでに国の『救護施設』があった!?

平安時代の記録『続日本後記』の833年に出てくる“多摩郡と入間郡の境に旅人を救護するための施設を置いた”という記事があり、市内ではその建物跡とも見られる遺跡が発見されています。

古代の大きな国道が清瀬のすぐ近くを通り、織本病院のように人々が体と心を癒した特別な場所があり、同じように美しい野菜も作っていた?ののでしょうか...

近くの柳瀬川沿いからは奈良・平安時代の建物跡も多く見つかかり、清戸三番衆という武士団がいたことや、村山党という武士たちも館を構えていたようです。古代の道や鎌倉街道から見た尽きない“清瀬の面白さ”をお話します。（宮田太郎氏談）

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2010年1月28日(木)
午後1:00～
会場：オリモトホール(当院4F)
参加費：無料